
our memory ~ 私達の記憶

水禍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

our memory 私達の記憶

【Nコード】

N3776H

【作者名】

水禍

【あらすじ】

これは、ヒカルの暮の再構成の話です。記憶を持った人々は原作をどう生きるのでしょうか？

prologue プロローグ（前書き）

再構成が嫌って方は見ないで下さい。

prologue プロローグ

ザザッ——プツッ——

何時もならお昼のドラマが放送されている時間——

しかし、今日は違った。急に、画面がかわったのだ。

「皆様こんにちは。

本来ならば、ドラマが放送されている時間ですが、たった今事故が起きました。

内容は、今日、中国と公開対局をする予定の若手棋士を乗せた車がガードレールを突き破り、崖から転落しました。……………乗っていた人々は、即死、今は救助隊が……………」

それを見た人達は

「名人！アキラ君が……」

「あなた、ヒカルが……」

「森下九段！……」

「和谷……っ！」

「康介！」

「越智さん……」

「伊角君……！！」

「社君……」

——運命は決まった——彼等の運命は変わった形で繰り返される——

「先ほどの事故に続き、またしても事故が起きました。
高校生ほどの男女グループ4名がスピード違反の大型車にひき逃げ
され……………」

——さあ運命が始まった——

prologue プロローグ（後書き）

是非感想お願いします。

our memory 1 (前書き)

短いです。

our memory 1

辺りが白い。体は水に潜った時のようだ。
そんな中

「どこだ……………」

声を出したのは、囲碁の世界で有名な若手棋士、進藤 ヒカル
だ。

「俺は……………」

「だれかいるのか？」 ……「！！！」

その声は聞き慣れた声だった。

「塔矢！？……………塔矢だよな？」

進藤は相手の名を呼んだが、やっぱり合っているかわからないので、
聞いた。

「……………その声は……………進藤？……………何故……………」
進藤が呼んだ名は合っていたようだ。

「なんでかわかんねえけど、俺達、崖から落ちたんだよ……………？」

——そう、進藤と塔矢を含め、囲碁の若手棋士達は、中国と対局するために同じ車に乗って移動していた。

しかし、その車が転落したのだ。しかも、2人ではなく5人が一緒に転落したはずだったが……

「進藤！！和谷君や、伊角さん、越智君もいるかもしれない……」

塔矢が青ざめた表情で言った。先ほども言ったが、落ちたのは5人だ。それに気付いた進藤は、

「まさか……俺達……」

塔矢が無言で頷く。

「……とりあえず、捜そう。」

「ああ、わかった。」

2人は他の仲間を捜していた。

しかし、何処を歩いてても白、白、白、
自分達が歩いているのもわからない空間に2人はいた。

暫くすると、懐かしい声が聞こえた。

【ヒカル、ヒカル、】

その声に気付いた進藤は周りをキョロキョロと見ていた。
進藤の奇妙な行動を見た塔矢は

「どうしたん

「佐為！どこだ！」 進藤！？」

【ここです。後ろ――】

佐為が言い終わる前に、進藤は後ろを向いた。
塔矢も同じ様に振り向くと

【久しぶり、ヒカル。
初めまして、塔矢。】

昔と変わらない笑顔があった。
塔矢は口を開き、

「佐為ってs a iなのか…？進藤」

「ああ、そうだ。

話してやるよ。」

進藤は佐為の事を話した。

勿論、最初は佐為が打っていたことも言った。

「1回目、お前と打ったのは佐為だ。2回目も、3回目は途中から俺がうつた。

自分の力を確かめたくて——」

全部話し終わると塔矢はスッキリした顔で微笑んだ。

「有難う、話してくれて」

進藤は照れくさそうに、

「おう!!」

と言った。

【あの、もう和谷君達捜しをした方が……】

佐為が言った

「あ!!そうだった!」

3人はまた歩き始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3776h/>

our memory ~ 私達の記憶

2010年10月12日08時25分発行